< 平成 2 3 年度の実践より >

第 3 学年実践事例 「ものをつくる人たち～工場の仕事～」からの抜粋

単元名 ものをつくる人たち～工場の仕事～

単元について

・自ら学びを深め合う授業をめざして

3 学年においては、めざす子ども像を「課題に向けてすすんで調べようとする子」「地域の見学や調査活動から、発見や疑問を持つ子」「見つけたことや考えたことを記録することができる子」「友達と意見交換することによって、自分の考えを持つ子」と設定し、具体的な支援の方法を単元ごとに考え取り組んできた。

本単元では、見学前にたくさんの質問事項を準備し予想を立て、見学後、予想と実際の違いから学習問題を立てて追究していくということに取り組みたい。また 2 学期以降、一人調べ学習にも取り組んできているが、ちくわやかまぼこについて調べてきた事実を資料として授業にも活かすことで、児童間での学びの深まりにつなげていきたい。そして、自分の心が動かされたことから学習問題を作り、調べ追究することができる姿勢を育てたいものである。

単元の目標

かまぼこ工場の見学を通して、ちくわやかまぼこ作りに取り組む人たちの工夫や努力、原料や製品を通じた他地域とのつながり、自分たちの暮らしとの結びつきについて捉えることができる。

かまぼこ作りについて関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分たちの生活とのかかわりを考える。工場で行われている生産活動の様子から学習問題を見い出して追究し、生産活動の特色やそれらの仕事に携わっている人々の工夫について思考、判断したことを言語等で適切に表現する。

工場での生産活動の様子を的確に見学、調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりすることができる。

工場で行われている生産活動には、原料や製品を通じた他地域や外国とのつながり、働く人の工夫や努力があることを理解する。

指導計画・評価計画（全 1 5 時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価方法 観察・資料活用 知識・理解 ・児童の予想

	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価規準・支援（ ）
課題をつかむ 予想する	身の回りの品物の大半は、工場で作られたものであるということに気付かせ、高知市の工場に関心を持たせる。	お店で売られている品物は、どこで作られているのだろう。 日頃、身の回りで使っている物で、工場で作られているものはないか、話し合う。 ・かまぼこもお菓子もティッシュペーパーもみんな工場だよ。 高知市に工場はないか、自分たちの経験や高知市の地図から話し合う。 ・かまぼこやお菓子の工場があるよ。	工場で作られるものに関心を持つことができる。 <発表・ノート>

	高知市の工場で作っているものに関心を持たせる。	<p>高知市にある工場では、何を作っているのだろう。</p> <p>かまぼこの実物や高知市の地図などから、高知市にある「かまぼこ工場」を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚からできているのかな。 ・おばあちゃんがかまぼこ工場働いているよ。 ・給食のちくわはこの工場で作ったの？ 	<p>「かまぼこ工場」で作られるものに関心を持つことができる。</p> <p><発表・ノート> 家庭での聞き取りをさせておく。</p>
調べる・追究する	調べたいことをはっきりさせるため、見学の計画を立て、見学する。	<p>見学の計画を立て、見学をしよう。</p> <p>見学に行き、何を見て確かめ、何を聞いてくるか、ノートに書き出しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやってたくさんのちくわを作るのか。 ・働く人は何を考えながら働いているか。 ・前に停まっている車はどこへ行くのかなど。 <p>見学のルールを守って見学をする。</p> <p>工場働く人は、どのようにしてちくわや天ぷらを作っているのだろう。</p>	<p>調べることを書き出し、見学の準備ができる。</p> <p><見学カード></p> <p>工場の人話を聞いたりメモしたり、観察したりして見学をすることができる。</p> <p><態度></p>

指導の実際

【第1・2時】課題をつかみ予想する

前単元で学習した店の品物を想起させ、田や畑で作られるもの、工場で作られるものなどを確かめていった。すると日頃身の回りで使っているものの他に食べ物でも工場で作られることが多いということに気付き、児童は工場というものに関心を持つようになった。そして、校区地図を見たり自分の通学路を思い出したりしながら、工場はどこにあるのか、何をどのように作っているのかなど、予想を出し合いながら興味関心を深めていった。

またかまぼこに着目させた後、家庭での聞き取りを基に、かまぼこの原料について確認したりかまぼこ工場が浦戸湾周辺にいくつかあることなどを確認したりしていった。ここでの学習が見学の時に聞いた「土佐かまぼこ工場は、土佐湾で獲れた魚を使って新鮮なうちにすり身を作り、それを原料として安心・安全のかまぼこを作っている。」という話とつながることとなった。

【第3・4・5時】共通体験を通して調べる

前単元でも見学をしているので、その視点を生かしながら、何を見て確かめ、何を聞いてくるかということと話し合った。そして、自分が調べたいことや予想を書かせるようにした。

見学の際は、気付きを後の学習問題につなげていくために、見たことや気付いたことをメモするように指導した。どこの見学でも同じではあるが、このかまぼこ工場では高温での製造工程があり、200度の天ぷら油や180度のちくわ焼き機の側を通るので、特に安全面での配慮が必要であった。また、床が油で若干滑りやすい感じもした。これらの熱いとか滑るとかという感覚は、後の施設設備の学習で活かされていくのだが、見学の際は気を付けなければならない点であった。また工場内の見学後に、質問をさせていただいたのだが、児童は前時で書き留めておいた「自分の調べたいこと」をよく質問することができていた。さらに、機械の値段や働く人の工夫や願いにまで質問が広がり、前単元での視点が活かされていることを感じた。

第4学年実践例 「くらしを高める願い」からの抜粋

単元名 くらしを高める願い

単元について

・自ら考え、学びを深め合う授業をめざして

本校の研究テーマ「自ら学ぶ子の育成」に向けては、問題解決的な学習の流れを大切にしてきた。例えば、春野が高知市の米どころであることを知り、「細かく流れる用水路に関係があるのではないか。」と予想した上で見学に臨ませる。見学後、印象に残ったことや気になることを話し合い、その中から新たにわかったことや、新しく疑問に思ったことを確認し合って、学習課題に組み込んでいきたい。その課題を深め合うために、ペア対話や班での話し合いの時間を確保する。新学習指導要領に示されている言語活動の充実に向けては、見学や調べ学習で習得した基礎知識を活用して、学習課題について考えを深め、探求させていくようにする。

前時までに、兼山の開発は土佐の国全体に及んだこと、新田開発のみに止まらず港湾の修築など多方面にわたること、またその過程で庶民に対する厳しい政策があったことなどを学習した。それらをふまえた上で、本時では兼山の行ったことに対して自分なりの評価をさせたい。

単元の目標

地域の人々の生活について、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について調べ、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができるようにする。

地域の開発によって地域の様子が変わり、人々の生活も向上してきたことを理解する。

学習指導計画・評価計画（全19時間、総合的な学習6時間）

内の数字...時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現

< >内...評価方法 観察・資料活用 知識・理解 ・子どもの予想

	目 標	学習の流れ（学習活動と児童の反応）	評価規準・支援（ ）
課題をつかむ・予想する	航空写真を見て、春野に水田が多いことに気づき、用水路について調べようとする意欲を持つ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高知市でお米が多く取れるのはどこだろう。</div> 春野に水田が多いことに気づき、春野の土地利用に目を向けていく。 ・用水路はいつできたのか。誰が作ったのか。	春野の土地利用の様子に目を向け、用水路について調べようとする意欲を持つ。 <発表>
	目的をもって、見学に臨むことができるように準備をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見学の準備をしよう。</div> 今までの学習でわからないことを整理し、知りたいことや、見たい点を書く。疑問については、予想も書く。	見学の準備をすることができる。 <見学カード>

調べる・追究する	(総合)	安全に気を付け、メモをしながら、見学をする。 広さや大きさを体感する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見学をして、調べよう。</div> 見学コース 高知市春野町郷土資料館 弘岡井筋 新川の落とし 八田堰	メモをしながら、見学をすることができる。 <見学カード>
		個々の見学のまとめをし、今後の学習の課題を作っていく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学習課題を作ろう。</div> 見学をして、わかったことや疑問に思ったことを発表し合う。 ・機械のない時代に大きな工事をして、用水路を作るのは大変なことだと思いました。 出された疑問を分類していき、課題作りをする。 ・堰や用水路はどうやって作ったのか。 ・働いた人の苦勞は。	友達の感想を聞き、かかわりを持ちながら課題づくりに参加することができる。 <発表・ノート>

指導の実際

【第1・2時】学習課題をつかむ

前单元「けんこうなくらし 水道」の中で、「水と米作りのかかわり」について触れたことを受けて、高知市内でお米がたくさん作られている地域を調べた。市内の航空写真から水田の多いところを見つけ、「高知市の米の生産量」のグラフを利用して、春野での米の生産量が多いことに気付くことができた。そこで春野へ見学に行き、その理由を調べてくることにした。

【第3時】予想を立て、調べる計画を立てる

「用水路ができる前」と「用水路ができた後」の資料（高知のくらし）を比較することで、前と後では水田の広がりや違うことに気付くことができた。このことから、用水路は米作りに大切な役割をしているのだろうと予想することで、見学の計画を立てた。

見学のときに、気を付けて聞いてくること

- ・用水路は誰がいつごろ造ったのかな。
- ・用水路を造るのにどんな苦勞があったのかな。
- ・お米の取れる量はどのくらい増えたのかな。
- ・水田が増えて人々の暮らしは変わったのかな。

【第4・5・6時】調べて確かめる（見学）

春野郷土資料館で学芸員の方の話を聞いた。ここで、多くの子どもは「野中兼山」という名前を初めて聞き、用水路が江戸時代の初頭にできたものだということを知った。その後、学芸員の方に解説してもらいながら、弘岡井筋、新川の落とし、行当の切り抜き、八田堰の順に見学した。

【第7時】見学したことをまとめる

見学してわかったことをワークシートにまとめたことで、用水路だけではなく堰が重要であることにも気付いた。まとめたことから、新たな疑問として、堰を作った方法などにも目を向け始めた。

第5学年実践事例2 「くらしを支える情報」からの抜粋

単元名 くらしを支える情報

単元について

・自ら考え、学びを深め合う授業をめざして

本単元の7時間目では緊急地震速報について取り上げる。まず、緊急地震速報がなかった昔と比較し、実際どの程度役立っているのか伝え合う。その後、緊急地震速報をよりよく活用するにはどうすればよいか考える。自分の考えは、根拠を基にワークシートに記述させる。話し合い活動では、子どもたちが出した理由や根拠を基に、これまでの学習を活用させながら多面的な見方、考え方を考えさせるように支援したい。情報があるから大丈夫と思うのではなく、上手に利用することが大切であり、なんとしても生き延びる方法を考えるきっかけにしたい。8時間目では、東日本大震災で被災した名取市の情報利用の資料を見て、名取市では防災情報を活用できていない人が50%もいることに気付かせる。防災情報を有効な情報として役立てるためには、緊急地震速報機器がどこにあるといいのか、また防災情報のよりよい入手手段を考える。昭和南海地震の体験者の話と東日本大震災の記録映像から、地震に対する危機感や命の大切さを感じ取らせたい。その際、双方向性を重視し、周りの人々と連携を取りながら避難することの大切さにも気付かせたい。本時では、情報化社会の光と影に目を向ける。東日本大震災に関する2種類のメール（エリアメール・チェーンメール）から、情報の受信者としてメールをどのように判断するかを考えさせる。

単元の目標

放送、新聞などの情報産業が様々な情報を提供し、自分たちの多くがそれらを多方面で利用していることについて、調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを考えることができるようにする。

情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている防災などの事例について資料を有効に活用したり、インターネットで情報を収集したりして調べ、それらの働きが、人々の生活を向上させるために利用され、自分たちの生活にも様々な影響を及ぼしていることについて、とらえることができるようにする。

情報化した社会において、情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を身に付けるようにする。

学習指導計画・評価計画（全12時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価方法 観察・資料活用 知識・理解 ・児童の予想

	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価規準・支援（ ）
課題をつかむ・予想する	自分たちの生活は、様々な方法で情報を手に入れ、役立っていることを理解することができる。	私たちは、どこからどんな情報を手に入れているのだろう。 様々な情報源を出し合い、自分たちの生活が様々な情報に支えられていることを知る。 ・高知県は台風や大雨が多いので台風情報や地震の情報を見ている。	自分たちが得ている情報や情報手段について考えることができる。 <ワークシート>

		情報伝達手段の特性を考慮しながらそれぞれの長所や短所を考え、学習課題を作ることができる。	<p>メディアのよい点、問題点を探ろう。</p> <p>様々な情報伝達手段の長所・短所を考え、学習問題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビは、ニュース速報や中継などで大事な情報を速くすることができる。 ・地震の時は、緊急地震速報が流れる。 ・携帯にも災害用伝言板がある。 ・情報で命が守られている。 	生活経験の中から情報伝達手段の長所や短所を考えることができる。 <ワークシート>
調べる・追究する		災害情報ネットワークについて課題別に調べ、伝え合うことができる。	<p>災害から身を守るためのネットワークは、どのように活用されているのだろうか。</p> <p>課題別に調べたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報の仕組みについて伝える。 ・過去の水害状況や情報網について伝える。 ・子ども安全連絡網について伝える。 	緊急地震速報の仕組みを知る。 <発表・ノート>

指導の実際

【第1・2時】学習問題をつかむ・課題を考える

導入として、まず自分たちの身の回りの生活を見つめることから始めた。自分たちが様々な情報に触れ、また活用しながら生活をしていることに気付かせるために地域の看板やポスターの図を資料として提示した。その中からたくさんの情報源を子どもたちに見つけさせ、どのようなよさや問題点があるのかを考えさせた。「地震の時にテレビで緊急速報が流れる。」「携帯電話に防犯機能がある。」「看板で交通情報が分かる。」など、自分たちの生活が情報によって守られていることに気付いた。特に子どもたちは自分の学校にある看板に着目していた。昭和小の地域は海拔ゼロメートル地帯であるため大きな地震の際には必ず津波が来ると言われている。「地震が起きる時のネットワークはどのようになっているのか。」という疑問が出され、今後授業で考えたい学習問題を大きく3つに絞り、各々が調べる学習に進んでいった。

【第3・4・5・6時】予想する・調べる・情報をまとめる

子どもから出された災害情報ネットワークについて、課題を次の3点に絞って調べ学習を行った。

・緊急地震速報の仕組み ・高知県の過去の震災関係 ・安全連絡網などのネットワーク

また、実際に体験している人から話を聞きたいという意見が出され、調べ学習後には地域の昭和南海地震の体験者の方や気象台で働いている方から話を実際に聞いた。調べた情報を伝え合う中で、災害情報のネットワークの仕組みについて詳しく知ることができた。子どもたちは地震体験の話から、昔は情報を得る仕組みが十分でなかったことにも気付き、比較することができた。調べたことは、ノートにまとめたり新聞を作ったりしながら表現させた。その際は、課題についての予想を立て、調べた結果と予想を比較しながら考えを書くなどの手立てを行った。

第6学年実践事例 「新しい時代の幕開け ～土佐の先人 坂本龍馬～」 からの抜粋

単元名 新しい時代の幕開け ～土佐の先人 坂本龍馬～

単元について

・自ら学びを深め合う授業をめざして

本校の研究テーマである「自ら学ぶ子の育成」～自ら考え、学びを深め合う授業づくり～に向け、5年生までに考えを持つ、書く、伝える、さらに考えを深めることをサイクルとして友達との話し合いの中で考えを深め合う授業づくりに取り組んできた。授業においては、問題解決的な学習（つかむ・見つける 調べる・考える まとめる・広げる）を取り入れ、児童たちの疑問から課題設定をし、教科書、資料集、見学、個人で集めた資料など様々な情報から、課題解決ができるように取り組んできた。そして、6年生ではそれを受けて目指す児童像を「資料や社会事象の中から関心や疑問を持ち、自ら課題を設定できる子」「課題に対して、自分の意見や考えを持てる子」「課題解決に向けて、適切な手段で調べることができる子」「友達とのかかわりの中で自分の考えを深め、新たな気付きや課題を持てる子」とした。その児童像に迫るための具体的な支援としては、以下の3点「児童の思いから課題を設定し、課題意識を高める。」「自分の考えの根拠となるものを明確に示しながら過去と今をつなげた歴史学習を進める。」「児童の思いや考えを大切にするために座席表を活用する。」を重点項目とした。そして、本単元では、特に「課題解決に対して、自分の意見や考えを持てる子」「友達とのかかわりの中で自分の考えを深め、新たな気付きや課題を持てる子」を育てたいと考えた。

本時の指導では、龍馬が1867年6月に藩船夕顔の中で作った「船中八策」を取り上げる。船中八策は倒幕後の新しい日本の体制を8項目に龍馬がまとめたものである。龍馬が生きてきた33年間の考えや思いが集約されており、これが明治政府の五か条の御誓文へとつながっていく。そこで本時は、

単元の目標

幕末から明治維新にかけての歴史的事象や背景を知り、新しい時代をつくるために活躍した先人にたちの活躍と願いについて関心を持ち、意欲的に調べる。

明治政府ができ、西洋の文化を取り入れながら国の仕組みを整えていったことを調べ、産業の発展や憲法の制定などの近代化を進めていった経緯や目的を理解する。

学習指導計画・評価計画（全11時間）

内の数字・・・時間数 学習活動 関心・意欲・態度 思考・判断・表現
 < >内・・・評価の方法 観察・資料活用・表現 知識・理解 ・子どもの予想

時	目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価・方法
課題をつかむ・予想する	日本に黒船が来航したことにより、鎖国が終わり欧米諸国との交易が始まったことをつかむ	<p>あなたは開国に賛成？それとも反対？</p> <p>黒船来航の資料を読み取り、黒船によって日本が影響を受けた内容をつかむ。</p> <p><賛成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎖国が終わり、様々な情報を入手することができたから。 ・身分制度がなくなるきっかけになったから。 <p><反対></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国をしても日本は不平等な条約を押し付けられて外国とは対等ではなかったから。 	黒船来航の絵図から当時の人々の気持ちを考えることができる。<ワークシート> 黒船来航がきっかけで日本が開国し不平等条約を結んだことを知るることができる。<ワークシート>

	黒船の来航や幕府の力の弱まりなど等幕末の日本の様子について資料を活用しながらつかむことができる。	<p>約260年間も続いた江戸幕府は、なぜ滅んだのだろうか。</p> <p>江戸時代の学習を振り返り、幕末の動きをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船が突然現れたことがきっかけかな。 ・龍馬はどうやって幕府を倒したのかな。 ・新しい政府はどんな政府なんだろう。 <p>新しい政府はどのようにつくられ、日本はどのように変わっていくのだろうか。</p>	<p>倒幕に至った理由を、資料を活用しながら考えることができる。<ワークシート ></p> <p>資料集、副読本などから江戸幕府が滅んだ理由を調べることができる。<態度・ワークシート ></p>
調べる・追究する	龍馬が薩長同盟を結ばせた理由や方法を探り、薩長同盟がその後の国策に影響を与えたことを理解する。	<p>龍馬はどのようにして薩長同盟を結ばせたのだろうか。</p> <p>当時大きな勢力を持っていた薩摩藩と長州藩を説得し、手を結ばせた背景を探り薩長同盟の持つ意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍馬はどうやって説得したのかな。 	<p>薩長同盟がどのように結ばれたのか知り、龍馬の果たした役割を考えることができる。<ワークシート ></p>

指導の実際

【第1・2時】学習問題をつかむ

導入は、幕末のペリー来航時の授業からはじめた。黒船を見た時の一般民衆の立場、龍馬の立場、幕府の立場をそれぞれ想像し、自分だったら開国に賛成か反対かを話し合った。

<p>開国に賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から進んだ技術を取り入れることができる。 ・このままでは外国からどんどん技術が遅れてしまっていて差が開いてしまう。 ・外国と貿易をすることで利益を得ることができる。 	<p>開国に反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国をしたら日本は技術などが遅れているから外国の言いなりになってしまうのではないか。 ・日本の文化が失われる。 ・平等な条約ならいいけど、不平等な条約は日本に不利になると思う。
--	--

まず児童は、黒船の来航や幕府の力の弱まりなど、幕末の日本の様子から江戸幕府がなぜ滅んだのかを調べた。そのうちに、倒幕運動に土佐藩が大きくかかわっていたことやそこに坂本龍馬の活躍があったことを知った。そこで、龍馬が日本を変えようとした理由やどのような方法で龍馬が幕府を倒したのかを調べていくことにした。龍馬のことを調べていくために『坂本龍馬を知っちゃう?』という副読本を使って学習を進めることにした。そして、坂本龍馬についてどんな一生を送りどんな人物だったのかを知るために、ゲストティーチャーに来ていただいた。さらに、児童から龍馬についてもっと詳しく知りたいという声があがり、「龍馬の生まれた町記念館」見学に行った。

【第3・4・5時】調べる・考える

龍馬が薩長同盟を結ばせた理由やその方法を調べた。その際には、龍馬が興した<亀山社中>が活躍したことも合わせて学習していった。龍馬は失敗してもあきらめずに薩摩と長州を説得していったことなど、龍馬の日本を変えたかったという強い思いを感じることができた。次時には、